

2026年度 文学部聴講生

講義要項

(国文学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名: 国語学概論A

担当教員: 藤原 浩史

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JA1-A101

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:52:5

更新者: AA0618

更新日時: 2025-12-16 15:04:0

### 授業形式

- すべての授業回にて、対面授業を行います。
- 意見・質問等は、manabaにて対応します。
- 試験は授業時間に行います。

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

- 導入として、「言語」について論ずる。言語が「意味」と「形式」の対応をもち、「体系」を有することによって成り立つということを解説する。
- 言語の「形式」である「音韻」の体系を講ずる。現実の「音」と言語形式としての「音」の差違、日本語の音韻の特徴を説明する。また、これによって生ずる語彙的性質にも言及する。
- 言語形式をうつす「文字」について解説する。
- 基本的に、現代日本語(標準語・共通語)を対象とする。
- 授業は講義形式で行うが、質疑応答を取り入れる。

### 科目目的

日本語の言語学的な基礎を学ぶ。国語学概論Aでは、主として、日本語の音韻構造と音声、そして、文字のしくみを学習する。

### 到達目標

日本語の音韻構造の特徴を学び、言語の心理的な形式と物理的な形式の二重性を理解する。また、言語と文字の関係性を理解する。

### 授業計画と内容

- 国語学とは?
- 言語の基礎
- 音韻論と音声学
- 母音の音素と音声
- 子音の音素と音声
- 日本語の音素と音声(1)ーア行～ダ行
- 日本語の音素と音声(2)ーナ行～ハ行
- 日本語の音素と音声(3)ーマ行～ワ行・拗音・外来音
- 拍と音節
- 特殊拍ー撥音・促音・長音
- 日本語のアクセント
- 文字とは?
- 日本語の文字の歴史ー漢字、仮名、ローマ字ー
- まとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 客観式試験
レポート	0%
平常点	30% 小レポート
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
  - グループワーク
  - プレゼンテーション
  - 実習、フィールドワーク
  - その他
  - 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

国語科教員  
 国立国語研究所国語辞典編集室研究員

### 実務経験に関連する授業内容

本授業は教職科目(国語)である。  
 国語科における音声教育・文字教育の基礎を教授する。  
 また、日本語の記述方法(説明方式)について、科学的な方法論を教授する。

### テキスト・参考文献等

【使用テキスト】  
 佐藤武義(編著)『展望 現代の日本語』白帝社

### オフィスアワー

### その他特記事項

本授業は教職科目(国語)である。  
 国語科における音声教育・文字教育の基礎を教授する。  
 また、日本語の記述方法(説明方式)について、科学的な方法論を教授する。

### 参考URL

**備考**

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(国語)の必修科目です。

---

科目名: 国語学概論B

担当教員: 藤原 浩史

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JA1-A102

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:52:5

更新者: AA0618

更新日時: 2025-12-16 15:06:1

### 授業形式

- ・すべての授業回にて、対面授業を行います。
- ・意見・質問等は、manabaにて対応します。
- ・試験は授業時間に行います。

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

1. 言語の「意味」を担う、「文法」・「語彙」の分野の基本構造を説明する。
2. 「文法」は、文法カテゴリーから出発し、日本語の文法的特徴に及ぶ。「語彙」は、単語の意味の仕組みから出発し、語彙の体系性と量的構造に及ぶ。
3. 基本的に、現代日本語(標準語・共通語)を対象とする。
4. 授業は講義形式で行うが、質疑応答を取り入れる。

### 科目目的

日本語の言語学的な基礎を学ぶ。国語学概論Bでは、主として、日本語の文法構造と意味論について学習する。

### 到達目標

日本語の音文法構造の特徴を学び、日本語の形態論的特徴と、構文論的な特徴について、基礎的な見識を形成する。

### 授業計画と内容

1. 日本語の文法－文法とは？－
2. 日本語の文法－構文論と形態論－
3. 日本語の文法－学校文法と日本語文法－
4. 日本語の文法－活用－
5. 日本語の文法－ヴォイス－
6. 日本語の文法－アスペクト－
7. 日本語の文法－みとめ方－
8. 日本語の文法－テンス－
9. 日本語の文法－モダリティ－
10. 日本語の文法－待遇表現－
11. 日本語の語彙－語彙とは？－
12. 日本語の語彙－意味と形式－
13. 日本語の語彙－和語・漢語・外来語－
14. 日本語の語彙－語彙の体系－

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 客観式試験
レポート	0%
平常点	30% 小レポートと質問票
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末  
その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

国語科教員  
国立国語研究所国語辞典編集室研究員

### 実務経験に関連する授業内容

本授業は教職科目(国語)である。  
国語科における文法教育・語彙教育の基礎を教授する。  
また、日本語の記述方法(説明方式)について、科学的な方法論を教授する。

### テキスト・参考文献等

【テキスト】  
佐藤武義(編著)『展望現代の日本語』白帝社

### オフィスアワー

### その他特記事項

本授業は教職科目(国語)である。  
国語科における文法教育・語彙教育の基礎を教授する。  
また、日本語の記述方法(説明方式)について、科学的な方法論を教授する。

### 参考URL

### 備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(国語)の必修科目です。

---

科目名：日本文学史A

担当教員：吉野 瑞恵

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月3

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A201

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AD0054

更新日時：2026-01-11 20:50:1

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

文学史は、個々の文学作品の評価を行った上で、より大きな視点から、それぞれのジャンルが時代の影響を受けながらどのように展開していったのか考察することによって成り立っている。

この授業では、文学作品が生み出された時代における評価と現代における評価の両方に目配りをしつつ、各時代の代表的な文学作品を取り上げて読解していく。対象とするのは、上代・中古・中世・近世、歴史学の時代区分でいうと古代・中世・近世の文学作品である。

**科目目的**

この科目は、学位授与の方針である国文学専攻の学問分野において求められる専門的な知識を身につけることを目的とする。

**到達目標**

- ・古典文学それぞれについての内容を理解し、自分の言葉で説明することができる。
- ・各文学作品の時代背景を理解し、作品への理解を深めることができる。
- ・古典文学に関する基礎的な知識を身につけ、今後の作品読解に活かすことができる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、時代区分、文学史とは何か)
- 第2回 上代文学①:『古事記』『日本書紀』—神代から人の世へ—
- 第3回 上代文学②:『万葉集』—仮名誕生以前の歌集—
- 第4回 中古文学①:『古今和歌集』—規範となった和歌集—
- 第5回 中古文学②:『伊勢物語』『大和物語』—歌語りから歌物語へ—
- 第6回 中古文学③:『蜻蛉日記』『更級日記』『讃岐典侍日記』—体験を語る—
- 第7回 中古文学④:『源氏物語』—新しい物語の出現—
- 第8回 中世文学①:『宇治拾遺物語』『閑居友』—説話集の隆盛—
- 第9回 中世文学②:『新古今和歌集』—和歌の新風—
- 第10回 中世文学③:『平家物語』『義経記』—軍記物語の数々—
- 第11回 近世文学①:『好色一代男』—古典のパロディー—
- 第12回 近世文学②:『源氏物語玉の小櫛』—国学の思想と古典研究—
- 第13回 近世文学③:『浮世風呂』—会話文の文字化—
- 第14回 総括・まとめ・到達度確認

\* 取り上げる作品は、シラバスとは異なる場合もあります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業で扱う作品については、あらかじめテキストを読んで、概要を頭に入れておくこと。授業で取り上げた作品だけではなく、同時代の他の作品についても目を通しておくこと。

興味を持った作品があれば、新編日本古典文学全集(小学館)、新日本古典文学大系(岩波書店)などを参照して実際に読んでほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 期末試験で、基礎的な知識が身に付いているか確認する。
レポート	0%
平常点	30% 毎回提出してもらう予定のリアクションペーパーの内容によって、授業が理解できているか判断する。場合によっては小課題を課すこともある。
その他	0%

## 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト: 秋山虔・三好行雄『原色シグマ 新日本文学史[増補版]』文英堂・2017年 ISBN:9784578271925

授業で扱う作品については、原文をコピーしたものを授業中に配布する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

受講に関わる要望・注意事項、および連絡先については、初回授業にて説明する。

### 参考URL

### 備考

この科目は教職(国語)の必修科目です。

科目名: 日本文学史B

担当教員: 竹田 志保

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 火5

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-JL1-A202

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:0

更新者: AA2346

更新日時: 2026-01-11 19:59:5

### 授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

この講義では、近世末期から戦後にかけての文学作品と作者、および文芸思潮などに関する歴史を学びます。個別の文学作品の読解だけでなく、それらを歴史的背景のなかで捉えることで理解を深めます。

### 科目目的

近世から近現代にいたる日本文学史に関する知識を獲得し、文学作品を歴史的に把握する能力を身につけることを目的とします。

### 到達目標

近世から近現代にいたる文学史の主要作品やジャンルに関する基礎知識を習得し、その流れを歴史的に説明できる。

### 授業計画と内容

- 1 ガイダンス、授業の概要の説明
- 2 近世から近代へ
- 3 明治文学① 開化期の文学
- 4 明治文学② 言文一致
- 5 明治文学③ 自然主義
- 6 明治文学④ 夏目漱石と森鷗外
- 7 大正文学① 青鞥、白樺派
- 8 大正文学② 新思潮、心境小説
- 9 昭和文学① モダニズム文学
- 10 昭和文学② プロレタリア文学
- 11 昭和文学③ 戦時下の文学
- 12 戦後の文学① 戦後派
- 13 戦後の文学② ポストモダン
- 14 授業のまとめと総括: 文学を歴史的に捉えることの意義

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	文学史に関する基本知識を問う試験を課します。
レポート	0%	
平常点	40%	授業時に小テスト・コメントなどの提出を求めます。平常点とは、これらの授業内課題の内容による評価のことを言います。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回、授業に出席することが基本ですから、欠席が半期に3回を超える場合は原則として成績評価の対象から除外します。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】秋山虔・三好行雄編著『原色シグマ 新日本文学史〔増補版〕』(文英堂・2017年・ISBN:978-4-578-27192-5)  
必要に応じて、作品等のプリントを配布する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

この科目は教職(国語)の必修科目です。

科目名： 上代文学A

担当教員： 小野 泰央

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 木1

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A203

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:0

更新者： AA1728

更新日時： 2025-12-01 18:14:2

### 授業形式

すべての授業回について、対面で授業を行います。

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

この講義では、万葉歌から浮かび上がる型を分析していきます。さらにその型がそれ以後の日本文学にどのように継承されていくかをも探っていきます。  
義体的には、以下の3点を中心にして論じていきます。

- ①構造 ソシュールからヤコブソンへいたる構造言語学とレヴィ＝ストロースなどの構造主義を理解した上で、万葉歌の構造を考える。
- ②後代への影響 万葉歌が後代の歌にどのように景況を及ぼしたかを考える。
- ③現代との関係 現代の歌詞や詩歌とどのように重なるかを考える。

### 科目目的

この科目は、学位授与の方針である国文学専攻の学問分野において求められる専門的な知識を身につけることを目的とする。

### 到達目標

- ・『万葉集』の特徴、構成、表記、関連人物、研究史上の問題など、整理して述べることができる。
- ・『万葉集』所載の和歌について、問題意識を持って読解し、先行研究を踏まえて自身の解釈を論理的に述べることができる。
- ・テキストを読むことを通じて、古典作品の読解方法を身に付けることができる。

### 授業計画と内容

- 第1回 批評理論を考えるーソシュールとヤコブソンとレヴィ＝ストロースー
- 第2回 万葉集の概略
- 第3回 詩型①ー初期の宮廷歌
- 第4回 詩型②ー相聞
- 第5回 詩型③ー口承と記載
- 第6回 詩型④ー挽歌
- 第7回 詩型⑤ー譬喩歌
- 第8回 詩型⑥ー漢文学の影響
- 第9回 詩型⑦ー大宰府の宴
- 第10回 詩型⑧ー七夕歌の物語性
- 第11回 詩型⑨ー東歌・防人歌
- 第12回 詩型⑩ー大伴家持の歌と六歌仙・古今集
- 第13回 詩型⑪ー正岡子規と万葉集
- 第14回 まとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業終了後に毎時コメントシートを提出してもらう。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	90% 基礎知識を理解した上で、古典文学を社会的背景から説明できるかどうかを評価する。
平常点	10% 儒業での質疑応答など、貢献度を評価する。
その他	0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキスト:『訳文 万葉集』(森 淳司 編・笠間書院)

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

受講に関わる要望・注意事項、および連絡先については、初回授業にて説明する。

#### 参考URL

#### 備考

**科目名： 上代文学B****担当教員： 小野 泰央**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 木1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A204

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA1728

更新日時：2025-12-01 18:19:1

**授業形式**

すべての授業回について、対面で授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義では、『古事記』上巻に記された神々の物語を取り上げ、そこに浮かび上がる話型を分析していきます。さらにその話型がそれ以後の日本文学にどのように継承されていくかをも探っていきます。

義体的には、以下の3点を中心にして論じていきます。

- ①話型 ソシュールからヤコブソンへといたる構造言語学とレヴィ＝ストロースなどの構造主義を理解した上で、『古事記』の神話の話型を考える。
- ②後代への影響 『古事記』の神話がその後の古典に及ぼした影響を考える。
- ③現代との関係 小説・ドラマ・マンガなどの現代作品とどのように話型が重なるか。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群として位置づけられていることから、専攻における知識の一つとして、古典におけるその背景を理解した作品研究を目的とする。

**到達目標**

- ・『古事記』に記載された神話を読み、語られることの意義が説明できる。
- ・神話に対する理解を深めることで、古代文学の特色を理解することができる。
- ・テキストを読むことを通じて、古典作品の読解方法を身に付けることができる。

**授業計画と内容**

- 第1回 批評理論を考えるーソシュール・ヤコブソン・レヴィ＝ストロースー
- 第2回 話型①ー『古事記』の成立とその時代
- 第3回 話型②ー天地の始まりと国土の創生
- 第4回 話型③ーイザナギの黄泉国訪問
- 第5回 話型④ーアマテラスとスサノヲ
- 第6回 話型⑤ースサノヲの大蛇退治
- 第7回 話型⑥ー因幡(いなば)のしろ兔
- 第8回 話型⑦ーオホアナムチの異界訪問
- 第9回 話型⑧ーオホアナムチから大国主(オホクニヌシ)へ
- 第10回 話型⑨ー大国主の国作り
- 第11回 話型⑩ー大国主の国譲り
- 第12回 話型⑪ー天孫ホノニギの地上への降臨
- 第13回 話型⑫ーヤマサチビコの海宮訪問
- 第14回 講義全体のふりかえり

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	90% 基礎知識を理解した上で、古典文学を社会的背景から説明できるかどうかを評価する。
平常点	10% 授業中の質疑応答など、授業での貢献度を評価する。
その他	0%

## 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

新版 古事記 現代語訳付き(角川ソフィア文庫)

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 中古文学A

担当教員： 中川 照将

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A205

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:0

更新者： AA2031

更新日時： 2025-12-24 10:18:3

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等**

中古文学Bと合わせて受講することが望ましい。

**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

『源氏物語』第1部と第2部について、毎時、有名な場面を取り上げながら、光源氏物語の論理と構造について考察します。また、平安時代における政治・風俗等の時代背景、ならびに本作品の文学史における特質についても解説します。

**科目目的**

日本文学史の知識と古文の基本的な読解力を活用しながら、平安時代に書かれた『源氏物語』の成り立ちと歴史的な位置づけについて考えます。『源氏物語』は、古典文学の中でも最も有名であり、かつ後世にも大きな影響を与えた作品です。『源氏物語』の読解を通して、本作品の概要を理解するのはもちろんのこと、それで得られた知識と方法を、他作品の読解に役立てていける応用力を身につけることが、この科目の目的です。

**到達目標**

- (1) 『源氏物語』第1部・第2部の内容・構成を理解できる。
- (2) 『源氏物語』の文学史的意義について理解できる。
- (3) 文学作品に関する諸問題について、その解決の糸口を自らの力で見つけることができる。
- (4) (1)～(3)の理解を踏まえ、自らの考えをレポートとして文章化することができる。

**授業計画と内容**

- 1 ガイダンスー 授業の目的・内容・評価に関する説明、『源氏物語』の概要
- 2 桐壺巻を読む①ー 光源氏物語以前
- 3 桐壺巻を読む②ー 光源氏の誕生と臣籍降下
- 4 若紫巻を読むー 藤壺への想い、若紫との出会い
- 5 帯木・空蟬巻を読むー 雨夜の品定めと空蟬
- 6 夕顔巻を読むー 帯木三帖・もう一つの恋物語
- 7 葵巻を読む①ー 歌を読み交わさない女性・葵上
- 8 葵巻を読む②ー 葵上と六条御息所の車争い
- 9 賢木巻を読むー 心を通わせない「男」と「女」
- 10 須磨・明石巻を読むー 公治長論語に、須磨源氏
- 11 薄雲巻を読むー 藤壺の死と罪の行方
- 12 若菜上下巻を読むー 藤壺の面影を求めて
- 13 柏木巻を読む・習熟度の確認ー 繰り返される過去の時間
- 14 まとめと課題の講評

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	100% 作品内容の理解度・講義内容の理解度・課題内容の理解度・課題に対する独自の解釈の4点に着目して評価します。
平常点	0%
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回、講義内容の感想や質問をresponで回収し、それをもって出席とします。授業当日の19時までに提出してください。  
なお、出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。提出期限に遅れたものについては受け付けません。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業中にresponのアンケートを用い、意見を求めることがあります。

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー  
タブレット端末  
その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【教科書】  
▼竹内正彦『図説あらすじと地図で面白いほどわかる！源氏物語』(青春新書, ISBN:978-4413045377)  
その他の講義資料に関しては、manabaにアップします。各自でダウンロードしてください。

【参考文献】  
▼高等学校で使用した「国語便覧」  
その他の参考文献に関しては、適宜指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業で使用する資料は、前日までにmanabaにアップします。各自で印刷するか、端末で見られるようにダウンロードしておいてください。

### 参考URL

### 備考



**科目名： 中古文学B****担当教員： 中川 照将**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-JL1-A206

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA2031

更新日時：2025-12-24 10:18:5

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等**

中古文学Aと合わせて受講することが望ましい。

**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

『源氏物語』第3部について、毎時、有名な場面を取り上げながら、光源氏以後の物語の論理と構造について考察します。また、平安時代における政治・風俗等の時代背景、ならびに本作品の文学史における特質についても解説していきます。

**科目目的**

日本文学史の知識と古文の基本的な読解力を活用しながら、平安時代に書かれた『源氏物語』の成り立ちと歴史的な位置づけについて考えます。『源氏物語』は、古典文学の中でも最も有名であり、かつ後世にも大きな影響を与えた作品です。『源氏物語』の読解を通して、本作品の概要を理解するのはもちろんのこと、それで得られた知識と方法を、他作品の読解に役立てていける応用力を身につけることが、この科目の目的です。

**到達目標**

- (1) 『源氏物語』第3部の内容・構成を理解できる。
- (2) 『源氏物語』の文学史的意義について理解できる。
- (3) 文学作品に関する諸問題について、その解決の糸口を自らの力で見つけることができる。
- (4) (1)～(3)の理解を踏まえ、自らの考えをレポートとして文章化することができる。

**授業計画と内容**

- 1 ガイダンスー 授業の目的・内容・評価に関する説明、『源氏物語』の概要
- 2 幻巻・雲隠巻・匂宮三帖ー 光源氏物語の終結と新たな物語の萌芽
- 3 橋姫巻を読む①ー 宇治十帖ってどんな話？
- 4 橋姫巻を読む②ー 薫の垣間見、姫君と楽器の不整合
- 5 橋姫巻を読む③ー 八宮の〈本心〉と薫の《誤解》
- 6 椎本巻を読むー 薫の恋愛物語と匂宮の参入
- 7 総角巻を読む①ー 「人のゆるし」という名の呪縛
- 8 総角巻を読む②ー 薫の誤解と「人のゆるし」の消失
- 9 早蕨・宿木巻を読むー 孤立する薫
- 10 宿木・東屋巻を読むー 形代としての浮舟
- 11 浮舟巻を読むー 二人の男・一人の女
- 12 蜻蛉巻を読むー 浮舟をめぐる二つの世界
- 13 夢浮橋巻を読む・習熟度の確認ー 薫の恋愛物語、その結末
- 14 まとめと課題の講評

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	100% 作品内容の理解度・講義内容の理解度・課題内容の理解度の3点に着目して評価します。
平常点	0%
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回、講義内容の感想や質問をresponで回収し、それをもって出席とします。授業当日の19時まで提出してください。出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。提出期限に遅れたものについては受け付けません。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業中にresponのアンケートを用い、意見を求めることがあります。

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

#### 【教科書】

▼竹内正彦『図説あらすじと地図で面白いほどわかる！源氏物語』(青春新書, ISBN:978-4413045377)  
その他の講義資料に関しては、manabaにアップします。各自でダウンロードしてください。

#### 【参考文献】

▼高等学校で使用した「国語便覧」  
その他の参考文献に関しては、適宜指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業で使用する資料は、前日までにmanabaにアップします。各自で印刷するか、端末で見られるようにダウンロードしておいてください。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 中世文学A****担当教員： 吉野 朋美**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月3

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A207

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA0722

更新日時：2026-01-10 19:14:0

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

院政期から安土桃山時代まで(おおよそ12世紀後半から16世紀)の文学について取り扱います。今期は、主に時代状況や社会的様相とかかわって展開していった文学の流れを確認しながら、度重なる戦乱や災禍に見舞われ価値観が大きく揺らいだ激動の時代に展開した中世文学の豊かな世界を、「背景となる社会状況・思想」を切り口に、多様なジャンルを取り上げ、分析・読解していきたいと思います。関連する具体的な作品を取り上げ、絵や写真等も見ながら、多角的に掘り下げたいと考えています。基本的には講義形式ですが、responで授業中におこなうクイズや授業後のコメントなどを通して、できる限り受講生の声を拾いあげ、それを取り込む形で進める予定です。

**科目目的**

中世は一般的には武士の時代とされていますが、一方で特に文化面では、朝廷や貴族、寺社といった既存の権力も強い力を持ちます。そうした多様な価値観がせめぎ合う中で多様な、そして活発な文学活動が行われ、多くの文学作品が残されました。それらをいくつかのテーマから多角的に見ていくことで、深く広く中世文学についての知識を得ることを目的とします。また、受講生のみなさんそれぞれが、毎回、何かを「発見」できるような講義をめざしたいと思います。

**到達目標**

- ・中世文学を知り、読むことの面白さを感じる。
  - ・様々な考察を通して、現代に生きる我々が古典文学を学び、味わうことの意義を見つける。
- 中世は多くの災害や戦乱に見舞われた激動の時代でしたが、その中でも人々はさまざまなかたちで語ることを手放しませんでした。中世文学を学ぶことで、混沌とした現代でわたしたちがどう生きていくのかというヒントが得られれば何よりです。

**授業計画と内容**

- 1、ガイダンス ―〈中世〉という時代区分・背景としての時代・社会状況と思想
  - 2、内乱をめぐるまなざし
  - 3、末法思想と無常観
  - 4、軍記文学概観／『平家物語』の世界1
  - 5、『平家物語』の世界2
  - 6、鎌倉と文学
  - 7、紀行文の諸相
  - 8、地獄と文学1――六道思想・地獄観の変遷
  - 9、地獄と文学2――文学作品に見る地獄／怨霊思想と文学1
  - 10、怨霊思想と文学2――『太平記』の描く世界
  - 11、神と仏の関係 ―神仏習合と本地垂迹
  - 12、中世神話の世界
  - 13、習熟度確認
  - 14、補足・総括
- ただし、授業の進度や受講生とのやりとり等によって変更することもあります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	65%	授業で扱ったことを理解しているかを確認します。ただし、習熟度確認の日までの出席が7割に満たない場合、試験の受験資格はありません。
レポート	0%	
平常点	35%	毎授業時および授業後のrespon提出で評価します。授業内でのクイズやコメント、終了後課題への取り組みで判断します。授業への参加姿勢、理解度、授業で扱った事柄に対する自分なりの考察や、感想、疑問点の提示などをポイントとして判断します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responを利用して受講生参加型の講義内容に関するQ&Aを授業内に実施し、授業内ですぐに結果を提示することで、学習内容の定着や授業への興味を高めるようにします。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、レジュメを配布します。参考文献については授業中に適宜紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

配布されるプリントをよく読み、自分なりに疑問点を明確にしながら授業に臨んでください。また授業では、作品のごく一部しかふれることができません。授業後は、作品とその背景への理解をより深めるために、自身でほかの部分を読んだり、関連作品や参考文献を読んだりするようにしてください。

なお、中世文学Bとあわせて受講することが望ましいです。また、時代を接する中古文学・近世文学や日本文学史の講義を受講すると、より理解が深まるでしょう。

参考URL

備考

---

**科目名： 中世文学B****担当教員： 吉野 朋美**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月3

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A208

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA0722

更新日時：2026-01-10 19:19:2

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

院政期から安土桃山時代まで(おおよそ12世紀後半から16世紀)の文学について取り扱います。今期は、時代状況や社会的様相とかかわって展開していった文学の流れを確認しつつ、「伝統の継承と変革」をキーワードにし、各ジャンルや文学作品において、それがどのように表され、そこに中世の人々のどのような心情や思想・信仰が反映しているか、関連する具体的な作品を取り上げ、絵や映像・画像等も見ながら、多角的に掘り下げたいと考えています。基本的には講義形式ですが、responで授業中におこなうクイズや授業後のコメントなどを通して、できる限り受講生の声を拾いあげ、それを取り込む形で進める予定です。

**科目目的**

中世は一般的には武士の時代とされていますが、一方で特に文化面では、朝廷や貴族、寺社といった既存の権力も強い力を持ちます。そうした多様な価値観がせめぎ合う中で多様な、そして活発な文学活動が行われ、多くの文学作品が残されました。いくつかのテーマから多角的に見ていくことで、深く広く中世文学についての知識を得ることを目的とします。また、各自の研究テーマの発見につながることもめざしたいと思います。

**到達目標**

- ・中世文学を知り、読むことの面白さを感じる。
  - ・過去に生きた人々の思想や宗教観を学び、現在とのかかわりを考える目を養うこと。
  - ・様々な考察を通して、現代に生きる我々が古典文学を学び、味わうことの意義を見つけること。
- 中世は多くの災害や戦乱に見舞われた激動の時代でしたが、その中でも人々はさまざまなかたちで語ることを手放しませんでした。中世文学を学ぶことで、混沌とした現代でわたしたちがどう生きていくのかというヒントが得られれば何よりです。

**授業計画と内容**

- 1、ガイドンス『徒然草』から
  - 2、和歌の隆盛 『新古今和歌集』を中心に
  - 3、『新古今集』以後の和歌の世界
  - 4、中世の学問——古典注釈・梗概書の時代
  - 5、古今伝授
  - 6、連歌の世界1 ——連歌史概観
  - 7、連歌の世界2 ——連歌の方法・連歌師
  - 8、連歌の世界3 ——百韻連歌をよむ
  - 9、「芸能」の時代1——歌謡・説経節・寺社芸能
  - 10、「芸能」の時代2——能・狂言・幸若舞
  - 11、お伽草子の世界1 ——分類・概観
  - 12、お伽草子の世界2 ——作品読解
  - 13、習熟度確認
  - 14、補足・総括
- ただし、授業の進度や受講生とのやりとり等によって変更することもあります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	65%	授業で扱ったことを理解しているかを確認します。ただし、習熟度確認の日までの出席が7割に満たない場合、試験の受験資格はありません。
レポート	0%	
平常点	35%	毎授業時および授業後のrespon提出で評価します。授業内でのクイズやコメント、終了後課題への取り組みで判断します。授業への参加姿勢、理解度、授業で扱った事柄に対する自分なりの考察や、感想、疑問点の提示などをポイントとして判断します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responを利用して受講生参加型の講義内容に関するQ&Aを授業内に実施し、授業内ですぐに結果を提示することで、学習内容の定着や授業への興味を高めるようにします。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、レジュメを配布する。  
参考文献は適宜、授業時に紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

配布されるプリントをよく読み、自分なりに疑問点を明確にして授業に臨んでください。また授業では、作品のごく一部しかふれることができ

ません。授業後は、作品とその背景への理解をより深めるために、自身でほかの部分を読んだり、関連作品や参考文献を読んだりするようにしてください。

なお、中世文学Aとあわせて受講することが望ましいです。また、時代を接する中古文学・近世文学や日本文学史の講義を受講すると、より理解が深まるでしょう。

**参考URL**

**備考**

---

**科目名： 近現代文学(1)A****担当教員： 宇佐美 毅**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A211

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA9013

更新日時：2026-01-11 22:09:1

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

学部1、2年生を主な履修対象としているので、フィクション作品を研究するとはどのようなことなのかを基礎から学ぶことにします。ただし、講義内容が抽象的にならないように、具体的な作品を取り上げて講義します。テレビドラマは作り手の個性を反映したものであると同時に、社会との関係によってその内容を変化させてきました。今年度前期の講義では、日本の戦後史とテレビドラマの関係を重視し、テレビドラマ作品を時代順に追いながら、それぞれの作品の時代背景との関係を考察していきます。

文学部国文学専攻以外の他学部・他専攻の学生の履修も歓迎します。

**科目目的**

日本のテレビドラマ作品を通して、フィクション作品を研究するのに必要な方法や考え方を学びます。

**到達目標**

フィクション作品を通して、文化的・社会的な課題を考察する姿勢を持てるようになること。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス・テレビドラマ研究の意義
- 第2回 1960年代のテレビドラマ・創成期
- 第3回 1970年代のテレビドラマ・学校ドラマ
- 第4回 1970年代のテレビドラマ・必殺シリーズ
- 第5回 1980年代のテレビドラマ・群像ドラマ
- 第6回 1980年代のテレビドラマ・トレンディドラマ
- 第7回 1990年代のテレビドラマ・バブル崩壊期のドラマ
- 第8回 1990年代のテレビドラマ・自分探しドラマ
- 第9回 2000年代のテレビドラマ・韓流ブームと純愛ブーム
- 第10回 2000年代のテレビドラマ・韓流ドラマとは何か
- 第11回 2010年代のテレビドラマ・東日本大震災とドラマ
- 第12回 近年の「朝ドラ」と「大河ドラマ」
- 第13回 日本のテレビドラマの現在と未来
- 第14回 授業のまとめ

授業形態は講義形式になります。ただし、授業が一方向的にならないよう、responによるアンケートなどによって、履修者からの意見の発信を毎回求めます。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回の講義内容に関して予習した上で講義に臨んでください。また、配布されたレジュメを講義後に十分理解するよう努めてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	50% 試験は、講義内容に基づいて学期末に一度おこなう予定です。
レポート	0%
平常点	50% 平常点とは、授業への出席して講義を理解すること、その上でrespon等で自分の考えたことを提出することを指します。単純に出席・欠席で平常点がつくわけではありません。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

試験においても、通常のrespon等においても、「講義を理解していること」「自分の考えを明確に示していること」を重視します。つまり、知識量や単純な暗記を求めるのではなく、理解に基づいた自分なりの考察をすることを重視します。なお、課題を提出しないことが多い、試験を無断で欠席する、などの場合は、成績評価から除外することがあります。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業で得られた履修者からの発信内容(respon等)について、講義者が授業内でコメントを加えることがあります。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関するループワークや、履修者の意見の発信を求めることがあります。

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業内でアンケートをおこない、その場でスマホ等によるresponの回答を求めることがあります。また、その回答の集計を表示して、講義者がコメントをすることがあります。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

購入してもらったテキスト等はありません。取り上げるテレビドラマの一部を授業内に視聴し、他にパワーポイントによる資料を授業後に配付します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・テレビドラマを通してフィクション作品について考えてみたい、という姿勢があれば、普段からテレビドラマをよく見ている必要はありません。
- ・授業には毎回出席することが基本ですから、欠席は多くても3回までとってください。内容は入門レベルの授業ですが、履修は100分間の授業に集中できる人に限ります。
- ・教室内では、responで回答するためにスマートフォンを使用できる時間を設けます。一方それ以外の時間は、PCやスマートフォンの使用を禁止します。講義を理解するのに集中する時間と、スマートフォンを用いて調べたり自分の意見を発信したりする時間とを、授業時間内で明確に区分するようにします。
- ・公欠等の理由のある欠席については、原則として学期末にまとめて所定の方法で届出をしてもらいます。緊急に対応が必要な場合を除

き、個別指導欄などを使って毎回個別に連絡をすることはしないでください。届出方法は授業内で説明します。なお、公欠等の理由のある欠席について一定の配慮をしますが、配慮のためには、授業後にresponの回答をすることなどが必要です。成績評価の欄にあるように、単純な「出席点」というものはこの授業にはありませんので、公欠届を出すことでそのまま平常点がつくわけではありません。

参考URL

備考

---

**科目名： 近現代文学(1)B****担当教員： 宇佐美 毅**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 水1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A212

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:0

更新者： AA9013

更新日時： 2026-01-12 20:59:3

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

学部1、2年生を主な履修対象としているので、日本の近現代文学を研究するとはどのようなことなのかを基礎から学ぶことにします。講義内容が抽象的にならないように、村上春樹の作品を具体的にとりあげながら講義します。

村上春樹作品は個々に独立していながらも、相互に関連しあっています。そこで今年度は村上春樹作品をだいたい時代順に考察していきますが、必ずしも一作品ずつ分析していくのではなく、毎回異なる分析のテーマを設けて、村上春樹作品の特徴を考察していきます。そのことによって、14回の授業を通して村上春樹の出発期から近年の作品までを取り上げていく予定です。

文学部国文学専攻以外の他学部・他専攻の学生の履修も歓迎します。

**科目目的**

村上春樹作品を通して、日本の近現代文学を研究するのに必要な方法や考え方を学びます。

**到達目標**

文学作品(小説その他)を研究するのに必要な、知識・姿勢・考え方を身につけることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス・村上春樹作品の軌跡
- 第2回 村上春樹初期作品と「読者の幻惑」
- 第3回 村上春樹作品と「恋愛像」
- 第4回 村上春樹作品と「謎」
- 第5回 村上春樹作品と「男性性」「女性性」
- 第6回 村上春樹作品と「作中人物のことば」
- 第7回 村上春樹作品と「一般読者」
- 第8回 村上春樹作品と「嘘」
- 第9回 村上春樹作品と「阪神淡路大震災」
- 第10回 村上春樹作品と「地下鉄サリン事件」
- 第11回 村上春樹作品と「国語教科書」
- 第12回 村上春樹作品と「マスコミ報道」
- 第13回 村上春樹の近年の作品と現在地
- 第14回 授業のまとめ

授業形態は講義形式になりますが、毎回respon等を通じて、履修者の皆さんの意見を発信してもらうように心がけます。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

『ノルウェイの森』(講談社文庫など)を読んだ上で講義に臨んでください。また、配布されたレジュメを講義後に十分理解するよう努めてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	50% 試験は、講義内容に基づいて学期末に一度おこなう予定です。
レポート	0%
平常点	50% 平常点は単なる出席点ではなく、毎回の授業内容を理解した上で、respon等を通じて各自の考えを発信するなど、授業への取り組み度を総合的に評価します。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

試験においても、通常のrespon等においても、「講義を理解していること」「自分の考えを明確に示していること」を重視します。つまり、知識量や単純な暗記を求めるのではなく、理解に基づいた自分なりの考察をすることを重視します。なお、課題を提出しないことが多い、試験を無断で欠席する、などの場合は、成績評価から除外することがあります。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業で得られた履修者からの発信内容(respon等)について、講義者がコメントを加えることがあります。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関するループワークや、履修者の意見の発信を求めることがあります。

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業内でアンケートをおこない、その場でスマホ等によるresponの回答を求めることがあります。また、その回答の集計を表示して、講義者がコメントをすることがあります。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストではありませんが、『ノルウェイの森』(講談社文庫など)に言及することが多いので、読んでおくことで授業を理解しやすくなります。他にも村上春樹作品をいくつか読んでおくことをお勧めします。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・村上春樹作品を通して文学研究について考えてみたい、という姿勢があれば、村上春樹作品を多く読んでおく必要はありません。また、村上春樹作品については好き嫌いが大きい傾向がありますので、村上春樹作品が嫌いでもかまいません。
- ・授業には毎回出席することが基本ですから、欠席は多くても3回までとってください。内容は入門レベルの授業ですが、履修は100分間の授業に集中できる人に限ります。
- ・教室内では、responで回答するためにスマートフォンを使用できる時間を設けます。一方それ以外の時間は、PCやスマートフォンの使用を禁止します。講義を理解するのに集中する時間と、スマートフォンを用いて調べたり自分の意見を発信したりする時間とを、授業時間内で明確に区分するようにします。
- ・公欠等の理由のある欠席については、原則として学期末にまとめて所定の方法で届出をしてもらいます。緊急に対応が必要な場合を除き、個別指導欄などを使って毎回個別に連絡をすることはしないでください。届出方法は授業内で説明します。なお、公欠等の理由のある

欠席について一定の配慮をしますが、配慮のためには、授業後にresponの回答をすることなどが必要です。成績評価の欄にあるように、単純な「出席点」というものはこの授業にはありませんので、公欠届を出すことでそのまま平常点がつくわけではありません。

参考URL

備考

---

科目名： 近現代文学(2)A

担当教員： 富塚 昌輝

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1・2年次担当

科目ナンバー： LE-JL1-A213

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:0

更新者： AA2033

更新日時： 2026-01-12 18:59:1

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

近代小説を出発させたとされる『小説神髓』という本の中で、坪内逍遙は「小説の主脳は人情なり世態風俗これに次ぐ」と述べています。小説の主目的は、人間の心のあり方や、社会・文化のあり方を描くことにあるということです。このような課題は具体的な文学作品においてどのように実現されているのでしょうか。本講義では、「近代」と「恋愛」というテーマを取り上げ、文学作品がそれらのテーマをどのように描いているのかについて考察することを目的とします。その上で、近代文学というジャンルが持つ知のあり方について理解を深めることを目的とします。

**科目目的**

近代文学の特質について理解を深め、その点を意識しながら文学を読む力を身につけることを目指します。また、あるテーマや課題について、文学を通して思考する力を身につけることを目指します。

**到達目標**

- 本科目では、以下を到達目標とします。
- ・近代文学の特質について理解することができる。
- ・あるテーマについて、文学を通して思考することができる。

**授業計画と内容**

- ①授業の概要説明—「シングル・ストーリーの危険」と「リスクフル・シンキング」
- ②大学で「文学」を学ぶことの意義(1)—多読のすすめ
- ③大学で「文学」を学ぶことの意義(2)—味読のすすめ
- ④「近代」と文学(1)—坪内逍遙『小説神髓』
- ⑤「近代」と文学(2)—二葉亭四迷『浮雲』
- ⑥「近代」と文学(3)—森鷗外『舞姫』
- ⑦「近代」と文学(4)—清水紫琴『こわれ指環』
- ⑧「恋愛」と文学(1)—北村透谷『厭世詩家と女性』
- ⑨「恋愛」と文学(2)—島崎藤村『若菜集』
- ⑩「恋愛」と文学(3)—徳富蘆花『不如帰』
- ⑪「恋愛」と文学(4)—谷崎潤一郎『鍵』
- ⑫「恋愛」と文学(5)—松浦理恵子『ナチュラル・ウーマン』
- ⑬「恋愛」と文学(6)—中上健次『讃歌』
- ⑭総括—「近代文学」を読む意義について

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	50% 期末レポート
平常点	50% 授業確認テスト、ショート・レポート
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】

授業時に指示します。

【参考文献】

授業時に指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業の展開によっては、取り扱う事柄や作品を変更して進める場合があります。また授業で取り上げる作品について読書レポートを課しますので、相応の負担がかかることを承知の上で受講してください。特別な場合を除き4回を超えて欠席した学生については、評価の対象外とします。

### 参考URL

### 備考

科目名： 近現代文学(2)B

担当教員： 富塚 昌輝

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A214

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:0

更新者： AA2033

更新日時： 2026-01-12 19:00:4

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、構造分析と物語論の方法について講じます。文学作品の中で、空間や意味がどのように配置されているのか、時間や視点がどのように操作されているのかについて考えます。そのことによって、ストーリー（出来事の推移）を追いかけるだけの読書から脱却し、文学作品を多角的に読解する姿勢を身につけます。

**科目目的**

文学作品を空間・意味の配置と、時間・視点の操作に注意して読む方法を習得することを目指します。そのことによって文学作品を読む方法について理解を深めるとともに、小説を複数の視角から読解する能力を習得することを目指します。

**到達目標**

- 本科目では、以下を到達目標とします。
- ・文学作品の構造分析について理解することができる。
  - ・文学作品の語り分析(物語論)について理解することができる。
  - ・構造分析、物語論を用いて文学作品を分析することができる。

**授業計画と内容**

- ①後期授業の概要説明
- ②構造分析の基礎①—道化と異化
- ③構造分析の基礎②—境界と越境
- ④泉鏡花『龍潭譚』(1)—日常から非日常へ
- ⑤泉鏡花『龍潭譚』(2)—山中異界という空間
- ⑥探偵小説と都市空間(1)—近代都市という空間
- ⑦探偵小説と都市空間(2)—近代都市の表と裏
- ⑧物語論の基礎①—物語言説と物語内容
- ⑨物語論の基礎②—時間、距離、視点、人称
- ⑩中島敦『山月記』(1)—物語論の実践
- ⑪中島敦『山月記』(2)—変調する語り
- ⑫夢野久作『瓶詰地獄』(1)—語りの構造
- ⑬夢野久作『瓶詰地獄』(2)—語りと騙り
- ⑭まとめと総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	50% 期末レポート
平常点	50% 授業確認テスト、ショート・レポート
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】

プリントを配付します。

【参考文献】

授業時に指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業の展開によっては、取り扱う事柄や作品を変更して進める場合もあります。特別な場合を除き4回を超えて欠席した学生については、評価の対象外とします。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 国語史A****担当教員： 池田 幸恵**

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 木5

配当年次： 1・2年次担当

科目ナンバー： LE-JA1-A215

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:0

更新者： AA1736

更新日時： 2026-01-09 10:06:3

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等**

国語学概論A・B

**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本語の歴史的变化を時代順に見ていくことにより、日本語の音韻や語彙、文法等について、それぞれがどのような特徴をもち、どのような変化をしながら現代語につながっているのかを考察する。

**科目目的**

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」を修得することを目的としています。

**到達目標**

講義中に出てきた重要語句について、分かりやすく説明できるようになる。  
日本語の歴史的变化について、他者に説明できるようになる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 上代の文献資料
- 第3回 上代の文体—古事記
- 第4回 上代の文体—万葉集
- 第5回 上代の音韻
- 第6回 上代の文法
- 第7回 中古の文字
- 第8回 中古の文体—和文
- 第9回 中古の文体—訓点資料
- 第10回 中古の音韻
- 第11回 中古の語彙
- 第12回 中古の文法—助動詞(1)
- 第13回 中古の文法—助動詞(2)
- 第14回 まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	50% 講義で学んだ重要事項について説明できるか、またそれに関して自分なりの考えを述べられるかを評価します。
レポート	0%
平常点	50% 数回、講義後に小テストを行います。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】

毎回資料を配付する。

【参考文献】

近藤泰弘他『日本語の歴史(放送大学教材)』放送大学教育振興会、2005

沖森卓也『日本語全史』ちくま新書1249、2017

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: 国語史B

担当教員: 池田 幸恵

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 木5

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JA1-A216

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:0

更新者: AA1736

更新日時: 2026-01-09 10:15:0

### 授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

### 履修条件・関連科目等

国語学概論A・B、国語史A

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

日本語の歴史的变化を時代順に見ていくことにより、日本語の音韻や語彙、文法等について、それぞれがどのような特徴をもち、どのような変化をしながら現代語につながっているのかを考察する。

### 科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」を修得することを目的としています。

### 到達目標

講義で学んだ重要語句について、分かりやすく説明できるようになる。  
古典語から現代語への変化の様相について、他者に説明できるようになる。

### 授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中世前期の音韻
- 第3回 中世前期の文体・語彙
- 第4回 中世前期の文法
- 第5回 中世後期の文体
- 第6回 中世後期の音韻
- 第7回 中世後期の文法
- 第8回 中世後期の語彙
- 第9回 近世の音韻
- 第10回 近世の文体・語彙
- 第11回 近世の文法
- 第12回 近代の国語政策・言文一致
- 第13回 近代の国語政策・標準語
- 第14回 まとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |     |
|------|-----|
| 中間試験 | 0%  |
| 期末試験 | 50% |
| レポート | 0%  |
- 講義で学んだ重要事項について説明できるか、またそれに関して自分なりの考えを述べられるかを評価します。

平常点 50% 数回、講義後に小テストを行います。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】

毎回資料を配付する。

【参考文献】

近藤泰弘他『日本語の歴史(放送大学教材)』放送大学教育振興会、2005

沖森卓也『日本語全史』ちくま新書1249、2017

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 漢文学A****担当教員： 増野 弘幸**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-JL1-A217

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AC7644

更新日時：2025-11-22 14:50:0

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

説明は講義形式、作品は受講者指名による講読形式にて進めて行く。中国最初の詩集である『詩経』より始め、漢代に至るまでの文学作品を詩を中心に時代毎に特徴、背景を考えながら、受講者と共に意見を出し合いながら見てゆく。

**科目目的**

国文学、日本語を形成する上で漢文及び漢文訓読の果たした役割は大きく、その影響は当然ながら近現代の国文学作品や日本語にも大きな影響を与えている。本科目では、国文学を読み解く、また、国語学を学ぶ上で重要な漢文訓読の手法を中心に作品を読み解きながら会得することを目指す。

**到達目標**

授業で取り上げた文学作品の読解が充分に出来る様になり、更に作品の持つ時代背景、中に籠められた意味についても深く理解出来る様にした。また、授業以外で出会う漢文資料について訓読や理解をある程度行える様にしてゆきたい。

**授業計画と内容**

- 1 漢文訓読に関する基礎的知識の確認。
- 2 基本文型Ⅰ、Ⅱを利用した作文による語順の把握。
- 3 基本文型Ⅲ、Ⅳを利用した作文による語順の把握。
- 4 基本文型Ⅴおよび応用を利用した作文による語順の把握。
- 5 『詩経』の詩の特徴説明と作品の鑑賞。
- 6 『詩経』の詩の特徴説明と「桃夭」の鑑賞。  
ここでは朱熹の注を併せて読み、注に基づいての詩の解釈の方法も訓練する。
- 7 『詩経』の詩の特徴説明と「采芣」の鑑賞。  
ここでは詩序毛伝鄭箋ならびに朱熹の注を併せて読み、注釈による違いを理解する。
- 8 『楚辞』の特徴説明と「漁夫之辞」、「離騷」の鑑賞。
- 9 漢代の辞賦について。
- 10 漢代の楽府の特徴説明を作品の鑑賞。
- 11 漢代楽府詩の読み取り。
- 12 古詩十九首の特徴説明と作品の鑑賞。
- 13 古詩十九首の特徴説明と読み取り。
- 14 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	80%	漢文の訓読力、解釈力、理解力について授業を通じてどの程度自身の学力となったかについて評価する。
レポート	0%	
平常点	20%	毎回の出席状況の評価する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

小テストにおいて目立った犯しやすい誤りなどあった場合、また、掲示板での質問について参加者が共有した方が良いと判断した場合には、コースニュースを通じて周知する。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室中での授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

プリントを使用する。参考文献については授業時に紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

訓読は日頃の修練の積み重ねであるので、授業の進行に合わせてテキストの漢文を辞書を用いながら読む努力を続ける。

### 参考URL

### 備考

この科目は教職(国語)の必修科目です。

**科目名：漢文学B****担当教員：増野 弘幸**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：月1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-JL1-A218

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AC7644

更新日時：2025-11-22 14:51:4

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

説明は講義形式、作品は受講者指名による講読形式にて進めて行く。後期は魏晉六朝から唐に至るまでの文学作品を詩を中心に時代毎に特徴、背景を考えながら、受講者にも意見を尋ねながら見てゆく。

**科目目的**

国文学、日本語を形成する上で漢文及び漢文訓読の果たした役割は大きく、その影響は当然ながら近現代の国文学作品や日本語にも大きな影響を与えている。本科目では、国文学を読み解く、また、国語学を学ぶ上で重要な漢文訓読の手法を中心に作品を読み解きながら会得することを目指す。

**到達目標**

授業で取り上げた文学作品の読解が充分に出来る様になり、更に作品の持つ時代背景、中に籠められた意味についても深く理解出来る様にしたい。また、授業以外で出会う漢文資料について訓読や理解をある程度行える様にしてゆきたい。

**授業計画と内容**

- 1、魏の建安詩の読解。
- 2、魏の建安詩の作品読解とその特徴について。
- 3、魏の正始詩の読解。
- 4、魏の正始詩の作品読解とその特徴について。
- 5、西晋期から東晋期における詩の変化。
- 6、東晋の詩の読解。
- 7、陶淵明詩読解とその特徴について。
- 8、陶淵明「帰去来辞」読解。
- 9、「帰去来辞」における寓意の理解。
- 10、近体詩の格律について。
- 11、初唐期の詩の読解とその特徴について。
- 12、盛唐期の詩の読解。
- 13、盛唐期の詩の読解とその特徴について。
- 14、総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	80%	漢文の訓読力、解釈力、理解力について授業を通じてどの程度自身の学力となったかについて評価する。
レポート	0%	

平常点 20% 毎回の出席状況进行评估する。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

小テストにおいて目立った犯しやすい誤りなどあった場合、また、掲示板での質問について参加者が共有した方が良いと判断した場合には、コースニュースを通じて周知する。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

プリントを使用する。参考文献については授業時に紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

訓読は日頃の修練の積み重ねであるので、授業の進行に合わせてテキストの漢文を辞書を用いながら読む努力を続ける。出来るだけ受講生自らが読む機会を作りながら解説を行ってゆくの、予めきちんと予習をした上で授業に臨んで欲しい。

### 参考URL

### 備考

この科目は教職(国語)の必修科目です。

---

**科目名： 日本語教育A****担当教員： 木谷 直之**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 土2

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JA1-A302

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AC7900

更新日時：2026-01-09 07:07:5

**授業形式**

対面の講義形式で授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義は、大きく二つの内容に分けられます。

前半は、国内外で行われている多様な日本語教育の現場を紹介し、学習目標や学習環境などの違いによって日本語学習の内容と方法がいかに多様であるかを見ます。特に、日本の学校で学ぶ日本語以外の言語を母語とする児童生徒を対象とした日本語教育と、日本で働きながら日本語を学ぶ「生活者としての外国人」を対象にした日本語教育の現状に焦点を当てて講義を進めます。

後半は、ノンネイティブ日本語教師や日本語学習者の視点から、「外国語としての日本語」を教える／学ぶ上でどのようなおもしろさや難しさがあるのかを考えます。日本語を母語とする私たち日本人にはなかなか気づけない「外国語としての日本語」の特徴に焦点を当てて講義を進めます。

**科目目的**

大きく2つの目的があります。

- ①学習環境や学習目標、学習ニーズ等の観点から、日本語教育がその内容と方法においていかに多様であるかを知り、後期の日本語教授法の多様性を考える基礎知識を身につけること。
- ②「外国語としての日本語」がどのような特徴を持っているかを知り、後期の日本語教授法の講義につながる基礎知識を身につけること。

**到達目標**

以下の4点を到達目標とします。

- ①学生の皆さんが日本国内の日本語教育と海外の日本語教育の現状を知り、現在の日本語教育がどのような広がりをもっているかを知り、自分の言葉で説明できるようになること。
- ②学生の皆さんが日本語教育の多様性について知り、特に年少者に対する日本語教育と、成人に対する日本語教育の異同について、自分の言葉で説明できるようになること。
- ③学生の皆さんが「外国語」として「日本語」を学ぶという視点から、自分の母語がどのような特徴を持った言語なのかを知り、「国語」との違いを意識できるようになること。
- ④学習環境、学習目標、学習方法、教科書・教材等の視点から、国内外の日本語教育の多様性を知るとともに、これまでの自分自身の外国語学習経験をふり返りる契機とすること。

**授業計画と内容**

- 第1回：講義の導入・日本語教育の多様性(国内・国外の日本語教育の現状の概観)
- 第2回：年少者の外国語教育および日本語教育を考える際に重要になる観点を整理
- 第3回：国内の外国人児童生徒のための日本語教育の現状と課題
- 第4回：海外の中等教育機関における日本語教育の現状と課題
- 第5回：海外の中等教育機関における日本語教育、特に異文化理解教育との関連について
- 第6回：「生活者としての外国人」に対する日本語教育の現状と課題
- 第7回：「生活者としての外国人」に対する日本語教育、特に目的別日本語教育について

第8回：外国語としての日本語(1)ー学校文法と日本語教育文法ー

第9回：外国語としての日本語(2)ー主語と主題ー

第10回：外国語としての日本語(3)ー視点ー

第11回：外国語としての日本語(4)ーテンズー

第12回：外国語としての日本語(5)ーアスペクトー

第13回：外国語としての日本語(6)ーモダリティー

第14回：外国語としての日本語(7)ー談話ー

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出

その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	2つのテーマでレポート提出。テーマは授業中に伝えます。 評価のポイントは、講義の内容を踏まえて、自分自身の外国語学習経験を批判的に分析・考察しまとめることができているかどうかを評価します。
平常点	30%	授業には60%以上の出席を求めます。クラブ活動等のため、出席できない場合は公欠届等の提出をお願いいたします。事前事後の連絡等なしに無断での欠席が40%以上の方は、単位の取得を認めません。欠席等の場合は、必ず連絡してください。 授業への参加および受講態度を確認するために、毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーに書く内容は、以下の2つ。 ①授業を受けて気が付いたこと、発見したこと、新しく知ったこと、自身の経験と関連付けて理解できたことなど。 ②授業の内容について疑問に思ったこと、質問したいこと。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

私は国際交流基金(日本語国際センター)で25年余り仕事をしてきました(2021年3月末に定年退職しました)。国際交流基金は、日本と海外の国々との文化交流を支援・促進するための独立行政法人です。国際交流基金は、大きく、①文化芸術交流、②日本語教育、③日本研究・知的交流の3つの交流事業に携わっています。私は専任講師として、②の日本語教育事業に携わってきました。私が所属していた国際交流基金日本語国際センターは、世界のさまざまな国や地域で日本語を教えている日本語教師(多くはノンネイティブ教師)を日本に招聘し、日本語と日本語教授法を中心とした教師研修を行っています。年間、400人以上の海外の日本語教師が日本を訪れ、短い研修で1か月、長い研修では6か月間、日本で研修を受けています。ただし、2020～2021年度は、世界的なコロナ・ウィルス感染拡大の影響を受け、訪日研修が実施できず、オンライン型の研修事業を行いました。

また、国際交流基金は、海外での事業遂行のため、世界各地に30余の海外センターおよび海外事務所を展開しています。私はこれまでエジプト(カイロ大学)、英国(ロンドン日本文化センター)、インドネシア(ジャカルタ日本文化センター)に赴任し、計8年半ほど海外で高等教育機関での日本語教育および初中等教育段階のノンネイティブ日本語教師支援の仕事をしてきました。国際交流基金退職後は、多文化共生センター東京の日本語講師として、海外の中学校を卒業し日本の高校への進学を希望している外国人生徒の日本語および教科(特に数学と英語)の学習支援の仕事をしています。海外の多様な学習環境のもとで小学校・中学校時代を過ごしてきた生徒たちが、日本の高校に進学するためには、日本語や各教科の学習だけではなく、日本の学校生活や学校文化、日々の生活習慣等についても学び慣れていく必要があります。「日本語教育A」では、上述のような実務経験から得た知識や情報、経験を活かしながら、講義を進めたいと考えています。

### 実務経験に関連する授業内容

私の実務経験と授業内容との関連は、以下の2点です。  
まず、私は職務上、海外の日本語教師の皆さんと直接、いろいろなやりとりをする機会が多く、その中で海外の日本語教育の現場でどのような課題や問題があるのかについて情報・意見交換をしています。また、留学や仕事のために来日する外国人の皆さんが日本で学習や研究を進める上で、あるいは日々の生活を送る中でどのような課題や問題を感じているかについても、情報・意見交換をしています。そのような実務の中で得た情報や知識を、「日本語教育A」の講義の中で織り交ぜてお話していこうと考えています。  
次に、私は、海外で日本語を教えるノンネイティブの教師の皆さんとのやりとりの中で、世界中のさまざまな言語と日本語を比較対照しながら日本語の特徴を考える機会を多く得てきました。日本語の文字、日本語の音声、日本語の語彙、日本語の文法などについて、日本語が他の言語と比べて、一つの言語として、どのような特徴を持っているのかを、学生の皆さんにお話しできればと考えています。私たちは、自分の母語である日本語を、ごく当たり前のように、何も疑問を感じることなく、日々の生活で使っていますが、その日本語を「外国語」として学び、身につけてきた外国人の目から見て、日本語にどのような特徴があるのかを、学生の皆さんに具体的にお話できればと考えています。

### テキスト・参考文献等

参考文献等は授業時に随時紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

この科目は教職(国語)の必修科目です。

---

**科目名： 日本語教育B****担当教員： 木谷 直之**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：土2

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JA1-A303

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AC7900

更新日時：2026-01-09 07:12:3

**授業形式**

対面の講義形式で授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

国内外の日本語教室で実際に日本語がどのように学ばれ、教えられているのかを教材・教具や教授法の面から概観します。主要な教授法の背景にどのような理論があるのか、言語学や教育心理学、認知言語学、第二言語習得研究などの視点から紹介します。そして、日本語教育研究がどのように行われているか、研究と実践の連携に焦点を当てて考えます。

**科目目的**

大きく2つの目的があります。

- ①さまざまな教授法理論がどのように生まれてきたのか、実際の現場でどのように用いられてきたのか、どのような長所・短所を持っているのかなど、これまでの日本語教育を支えてきた教授法理論について基礎知識を得ること。
- ②「第二言語習得研究」がこれまで明らかにしてきたことを知り、その知見が実際の教育現場でどのように活用されているかを知ること。

**到達目標**

以下の4点を到達目標とします。

- ①学生の皆さんがさまざまな外国語教授法の理論的背景と実際の方法を知り、日本語教育の現場で日本語がどのように教えられてきたかを自分の言葉で説明できるようになること。
- ②学生の皆さんが講義を通して学んだ教授法の考え方をういて、自分自身の外国語学習経験を批判的に分析・考察できるようになること。
- ③学生の皆さんが「第二言語習得研究」がこれまで明らかにしてきた重要な知見を知り、自分自身の外国語学習経験を「第二言語習得」の観点から批判的に分析・考察できるようになること。
- ④日本語教育に関連して、どのような調査研究が行われ、その結果、どのようなことが明らかにされてきたかを知り、外国語学習・教授の分野に興味関心を持つこと。

**授業計画と内容**

- 第1回：導入・日本語を教えるということ
- 第2回：第一言語習得(First Language Acquisition)の研究
- 第3回：第一言語習得の研究に影響を受けた教授法-外国語教授法の歴史の変遷-
- 第4回：オーディオリンガル・メソッド(1)-理論的背景-
- 第5回：オーディオリンガル・メソッド(2)-練習方法-
- 第6回：コミュニカティブ・アプローチ(1)-理論的背景-
- 第7回：コミュニカティブ・アプローチ(2)-教授技術と授業設計-
- 第8回：教材分析 -代表的な日本語教科書を分析し、練習方法や教室活動の実際を知る-
- 第9回：評価方法、特にパフォーマンス評価の方法を考える
- 第10回：自然習得と教室習得
- 第11回：第二言語習得理論(1)-中間言語-
- 第12回：第二言語習得理論(2)-5つの仮説-
- 第13回：第二言語習得理論(3)-インプットからアウトプットへ-
- 第14回：第二言語習得理論(4)-授業設計のガイドライン-

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	レポートのテーマは2つあります。テーマの詳細は、授業の中で連絡します。 レポートの評価では、講義の中で紹介した外国語教授法の理論や実際の教授法の観点から、自分自身の外国語学習の経験を批判的に分析・考察し、まとめることができているかどうかを評価します。いろいろな教授法理論を説明するだけでなく、その考え方を使得って自分自身の外国語学習経験(教えたことがある人は教授経験)を考察できているかどうかの評価のポイントになります。
平常点	30%	授業には60%以上の出席を求めます。クラブ活動等の理由で欠席する場合は、事前事後に公欠届等の提出をお願いいたします。無断での欠席が40%以上になる場合は、単位の取得を認めません。授業出席について何某かの問題がある場合は、必ず事前に相談してください。 毎回の授業のあとで、リアクションペーパーの提出を課します。リアクションペーパーには、①講義を受けて新しく知ったこと、自分の経験と関連付けて気が付いたこと/発見したこと、特に興味を持ったこと、②講義の内容について疑問に感じたこと、質問したいことの2点について自由に書いてもらいます。リアクションペーパーの記述内容から、講義の理解度、授業への参加度などを総合的に評価します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

私は国際交流基金(日本語国際センター)で25年余り仕事をしています。  
国際交流基金は、日本と海外の国々との文化交流を支援・促進するための独立行政法人です。  
国際交流基金は、大きく、①文化芸術交流、②日本語教育、③日本研究・知的交流の3つの交流事業に携わっています。  
私は専任講師として、②の日本語教育事業に携わってきました。私が所属していた国際交流基金日本語国際センターは、世界のさまざまな国や地域で日本語を教えている日本語教師(多くはノンネイティブ教師)を日本に招聘し、日本語と日本語教授法を中心とした教師研修を行っています。年間、400人以上の海外の日本語教師が日本を訪れ、短い研修で1か月、長い研修では6か月間、日本で研修を受けています。ただし、2020～2021年度は、世界的なコロナ・ウィルス感染拡大のため、訪日研修が実施できず、代わりにオンライン型の研修事業を期間と内容を変え行ってきました。  
また、国際交流基金は、海外での日本語教育支援のため、30余の海外センターおよび会議事務所を持っています。私はこれまでエジプト(カイロ大学)、英国(ロンドン日本文化センター)、インドネシア(ジャカルタ日本文化センター)に赴任し、計8年半ほど海外で、主に高等教育段階の日本語教育支援と、初中等教育段階のノンネイティブ日本語教師に対する研修事業の仕事をしてきました。  
国際交流基金退職後は、多文化共生センター東京の日本語講師として、海外の中学校を卒業し日本の高校への進学を希望している外国人生徒の日本語および教科(特に数学と英語)の学習支援の仕事をしています。海外の多様な学習環境のもとで小学校・中学校時代を過ごしてきた生徒たちが、日本の高校に進学するためには、日本語や各教科の学習だけではなく、日本の学校生活や学校文化、日々の生活習慣等についても学び慣れていくことが必要です。

「日本語教育B」では、その実務経験から得た知識や情報、経験を活かしながら、講義を進めたいと考えています。

### 実務経験に関連する授業内容

私の実務経験と授業内容との関連は、以下の2点です。

まず、私は職務上、海外の日本語教師の皆さんと直接、いろいろなやりとりをする機会が多く、その中で海外の日本語教育の現場でどのような教材や教具、教授法が用いられているか、そして、その教授法にどのような課題や問題点があるかについて情報・意見交換をしています。また、私自身がさまざまな学習背景を持つ学習者に日本語を教えてきた教授経験の中で、諸々の教授法のいい点、足りない点等について考えてきました。それらの経験を踏まえて、実際に日本語教育の現場で日本語の教え方と学び方について、どのような試行錯誤が行われているのかを講義の中でお話ししたいと思っています。

次に、私は、海外の職場で仕事をする中で「第二言語習得研究」に興味を持ち、大学や大学院の学生に研究指導する中で、第二言語習得研究の成果を現場の教え方にどのように活かしていけばいいかについて考えてきました。私がずっと携わってきた教師研修の授業やワークの中でも第二言語習得研究の知見を活かした教え方について、学生や同僚の教師とディスカッションを重ねてきました。日本語教育Bの講義では、第二言語習得研究でこれまでの重要な知見を紹介・説明し、それらが現場でどのように活用されているかについても、具体的な例を交えながらお話ししたいと考えています。

### テキスト・参考文献等

参考文献等は授業時に随時紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

この科目は教職(国語)の必修科目です。

---

科目名：国文学作家作品研究(1)A

担当教員：吉野 瑞恵

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A401

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AD0054

更新日時：2026-01-12 22:17:0

### 授業形式

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

『源氏物語』のことば

この講義では『源氏物語』を読解する際に、キーワードになる語を毎回一つずつ取り上げて、具体的な場面に即しつつその意味について考察する。

「宿世」のように『源氏物語』が生まれた時代に共有されていたものの、現代人には理解しにくい概念を表す語や、「なつかし」のように現代語のもとになっていながら、現代語にはない意味が含まれている語などを分析することを通して、この時代特有の思考のありようを考えていきたい。

### 科目目的

この科目は、学位授与の方針である国文学専攻の学問分野において求められる専門的な知識を身につけることを目的とする。

### 到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・『源氏物語』を理解する際に重要な語について、その本質的な意味を説明できる。
- ・『源氏物語』を原文で読解し、深く理解できるようになる。

### 授業計画と内容

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 『源氏物語』概説
- 第3回 宿世
- 第4回 憂し・つらし
- 第5回 ゆゆし
- 第6回 なつかし
- 第7回 雄々し
- 第8回 おほけなし
- 第9回 人笑へ
- 第10回 かいま見
- 第11回 盗む
- 第12回 あくがる
- 第13回 色好み
- 第14回 総括・まとめ・到達度確認

なお、扱うことばについてはシラバスと異なる場合があります。

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	『源氏物語』において重要な役割を果たしている語について、その意味を詳しく説明できる。授業中に取り上げた場面について正しく解釈できる。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回リアクションペーパーを提出してもらい、授業の参加度および理解度を評価する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

以下のテキストをコピーして配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。  
『源氏物語』1～6(阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 校注・訳) 小学館新編日本古典文学全集

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL



科目名：国文学作家作品研究(1)B

担当教員：吉野 瑞恵

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：月4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A402

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AD0054

更新日時：2026-01-11 23:28:2

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

『源氏物語』の和歌について考える一紫の上の和歌を中心に—

『源氏物語』の中には、登場人物が詠む八百首近くの和歌が含まれている。その中には二人の人物の間でやり取りされる贈答歌もあれば、三人以上の人物が詠み合う唱和歌もあり、また誰にも伝えられない思いを一人で詠む独詠歌もある。和歌は他者に思いを伝えるコミュニケーションの手段であると同時に、誰にも伝えられない思いを密かに吐露する手段ともなっている。また、引歌のように、古歌を地の文で引用したり、会話の中で引用する場合もある。

この講義では、そのような『源氏物語』の和歌の諸相を、紫の上にかかわる和歌を取り上げながら考えていきたい。

**科目目的**

この科目は、学位授与の方針である国文学専攻の学問分野において求められる専門的な知識を身につけることを目的とする。

**到達目標**

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・『源氏物語』の和歌についてその特徴を説明できるようになること。
- ・『源氏物語』を原文で深く読解できるようになること。

**授業計画と内容**

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 『源氏物語』概説
- 第3回 贈答歌・独詠歌・唱和歌・引歌
- 第4回 「紫の上」の由来の歌、光源氏紫の上の手習を教える(若紫巻)
- 第5回 後朝の歌(葵巻)
- 第6回 雲林院に籠る光源氏と紫の上の贈答歌(賢木巻)
- 第7回 須磨の別れの歌(須磨巻)
- 第8回 須磨と都を行き来する歌(須磨巻)
- 第9回 明石の君との関係を告げる歌、大堰に行く光源氏と紫の上の歌(明石巻・薄雲巻)
- 第10回 女三の宮の降嫁の際の紫の上の歌(若菜上巻)
- 第11回 紫の上の手習の歌(若菜上巻)
- 第12回 紫の上の死の直前の歌(御法巻)
- 第13回 光源氏、紫の上の手紙を焼く(幻巻)
- 第14回 総括・まとめ・到達度確認

\*扱う場面や巻については、シラバスと異なる場合もあります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 『源氏物語』の中の和歌の特徴について、具体的な場面に即して説明できるかどうかを評価する。
レポート	0%
平常点	40% 毎回リアクションペーパーを提出してもらい、授業の参加度および理解度を評価する。
その他	0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

以下のテキストをコピーして配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。  
『源氏物語』1～4(阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 校注・訳) 小学館新編日本古典文学全集

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考

科目名：国文学作家作品研究(2)A

担当教員：山下 真史

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A403

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA0325

更新日時：2026-01-11 01:02:2

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

森鷗外は、明治22年にドイツから帰国して以後、小説、詩歌、評論と幅広い分野で、精力的な活動を始めましたが、明治末に「雁」を書いて以後は、現代小説を離れ、歴史小説、史伝を書いていくことになりました。この授業では、鷗外の最後の現代小説である「雁」とその後に書いた歴史小説を読みます。歴史小説は、典拠と比較しながら読み解いていきます。「興津弥五右衛門の遺書」「阿部一族」などの作品を取り上げ、その手法、それぞれの作品のモチーフを探っていきます。

**科目目的**

近現代文学の研究は、個々の作品の読みを深め、同時代との関係を見極め、文学史を構築することが大きな目標であると考えます。鷗外は、日本の近代文学の礎を作った一人で、明治期の活動は近代文学が形作られていく過程と密接していますが、大正期に入ると、現代小説への関心を失っていきます。この授業では、最後の現代小説である「雁」と歴史小説を取り上げ、鷗外の文学活動、典拠と比較しながら作品を解釈する方法、小説ジャンルについての理解を深めることなどを目的とします。

**到達目標**

鷗外は、デビュー作の「舞姫」が有名ですが、自我の目覚めを描くことは、鷗外のモチーフでもあって、晩年の「雁」もそのようなモチーフが見られる小説です。登場人物の心理の綾を読み解くことは小説読解の基本ですが、そのような技能を身につけることが目標です。一方、歴史小説は、資料を基にどう書き換えていくかというのが面白さの一つですが、鷗外の歴史小説を読みながら、作家の文学観、資料との比較検討の仕方、作家の意図の読み取り方などについての知識と技能を身につけることが目標です。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス『舞姫』について
- 第2回 森鷗外の人となりと作品
- 第3回 「雁」の「壺」から「陸」について
- 第4回 「漆」から「拾貳」について
- 第5回 「拾参」から「拾捌」について
- 第6回 「拾玖」から「貳拾肆」について
- 第7回 歴史小説について
- 第8回 「興津弥五右衛門の遺書」の典拠について
- 第9回 「興津弥五右衛門の遺書」の解釈について
- 第10回 「阿部一族」の典拠について
- 第11回 「阿部一族」の解釈について
- 第12回 「佐橋甚三郎」について
- 第13回 到達度確認
- 第14回 鷗外の晩年の小説についてのまとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 時間を限って試験を行い、知識が身についたかどうかを評価します。
レポート	20% 2、3回程度、ショートレポートの提出を求める予定です。
平常点	0%
その他	0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキスト  
森鷗外「雁」(2008年、新潮文庫)  
森鷗外『山椒大夫・高瀬舟・阿部一族』(2012年、角川文庫)

その他、必要に応じてプリントを配布します。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考



科目名：国文学作家作品研究(2)B

担当教員：山下 真史

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A404

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA0325

更新日時：2026-01-11 12:07:4

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

戦時下の太宰治は、「お伽草子」や「新釈諸国話」など、古典のパロディを多く手がけ、魯迅の仙台時代を描いた「惜別」を書くなど、精力的に活動していました。この時期には雑誌社の依頼に応え、短篇小说や、短いエッセイも多く残しています。この授業では昭和15(1940)年から19(1944)年の間に書かれた作品を読み、戦時中に太宰治がどのような文学を志していたかを探ります。具体的には『ろまん燈籠』(新潮文庫)に収められている小説・エッセイを読んでいきます。

**科目目的**

作家がその時代の風潮に対してどのような姿勢を取っていたかを明らかにすることは、文学史を考える上で重要なことです。戦時中は特に、戦争に賛成か反対かというような単純な色分けは出来ませんし、検閲の問題も念頭に置いて、考える必要があります。この授業で読むのは、太宰の戦時下の大作ではありませんが、小品に本音を漏らしていることもありますので、この時期の小品を精読することを通して、太宰の戦時下の姿勢を探ります。

**到達目標**

戦時下の太宰の小品を取り上げますが、受講生は、時代状況を踏まえて、注釈をした上で、作品を解釈する方法を身につけます。作品が書かれた時代の常識を知らないと、誤読することになりますので、時代の常識を知ってから作品を考える能力を身につけます。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 太宰治の人となりと作品について
- 第3回 戦時下の文学状況について
- 第4回 「ろまん燈籠」について
- 第5回 「みみずく通信」について
- 第6回 「誰」「恥」について
- 第7回 「新郎」について
- 第8回 「一二月八日」について
- 第9回 「作家の手帖」について
- 第10回 「佳日」について
- 第11回 「散華」について
- 第12回 「雪の夜の話し」「東京だより」について
- 第13回 到達度確認
- 第14回 戦時下の作品についての総括

\* 取り上げる作品は、受講者の希望に応じて若干変更することもあり得る。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 時間を限って試験を行い、授業内容が理解出来たかどうかを評価します。
レポート	0%
平常点	20% 数回課す予定のショートレポートを評価します。
その他	0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
  - グループワーク
  - プレゼンテーション
  - 実習、フィールドワーク
  - その他
  - 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキスト  
太宰治『ろまん燈籠』(新潮文庫)  
必要に応じてプリントを配布します。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考



**科目名： 日本漢文学A****担当教員： 小野 泰央**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A405

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA1728

更新日時：2025-12-01 18:30:5

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

古代から中古に至る古典においていかに中国文学および日本漢文学が影響をしていくかを通史的にみていく。特に漢字・典籍の将来から始まり、平安時代の仮名文学に至るまでどのように漢文学が日本の古典に関係するかを解き明かす。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群として位置づけられていることから、専攻における知識の一つとして、古典におけるその背景を理解した作品研究を目的とする。

**到達目標**

- この科目では、以下を到達目標とします。
- ・日本漢文が読めるようになる。
  - ・古典のなかの漢文の位置を理解出来るようになる。

**授業計画と内容**

- 課題解決型の学習
- 第1回 古代日本漢文学の意義
  - 第2回 十七条憲法と論語・文選—儒教の伝来
  - 第3回 古事記と唐代小説—異界の話型
  - 第4回 日本書紀と莊子—聖帝
  - 第5回 万葉集と初唐詩—古代和歌と漢詩
  - 第6回 菅家後集と白氏文集—「閑適」と「諷諭」
  - 第7回 古今集序と詩経—「六義」「斯文」
  - 第8回 天徳闢詩と擬古詩—句題詩の形式
  - 第9回 蜻蛉日記と千載佳句—女兒への漢文教育
  - 第10回 源氏物語と白氏文集—長恨歌と官女
  - 第11回 和漢朗詠集と白氏文集—朗詠
  - 第12回 本朝文粹と文選—賦の文体
  - 第13回 江談抄と作文大体—句題詩詩論
  - 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

レポート	90%	自らの手で日本漢文学に対する現象を見つけられたか否かで判断する。
平常点	10%	質疑応答などの授業での貢献度を評価する。
その他	0%	

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

クリックカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

授業時にレジュメを配布する。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考

**科目名： 日本漢文学B****担当教員： 小野 泰央**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JL3-A406

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA1728

更新日時：2025-12-01 18:31:4

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中世から近世に至る古典においていかに中国文学および日本漢文学が影響をしていくかを通史的にみていく。特に漢文学の学力が低下して歌学が台頭してきた時代を経て、五山文学がどのように宋学を受け入れて、更に近世の儒学へと継承されていったかを軸に論じる。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群として位置づけられていることから、専攻における知識の一つとして、古典におけるその背景を理解した作品研究を目的とする。

**到達目標**

- この科目では、以下を到達目標とします。
- ・日本漢文が読めるようになる。
  - ・古典のなかの漢文の位置を理解出来るようになる。

**授業計画と内容**

課題解決型の学習

- 第1回 中世近世日本漢文学の意義
- 第2回 俊頼髓脳と唐代説話—説話の生成
- 第3回 本朝無題詩と宋代詩話—集句
- 第4回 今昔物語集と冥報記—フコト点
- 第5回 台記と経典—古記録の文学性
- 第6回 民経記と擬古物語—物語製作の背景
- 第7回 賦光源氏物語詩と白居易—擬古詩
- 第8回 濟北集と詩人玉屑—「三偷」
- 第9回 義堂周信と杜甫—文章—小伎論
- 第10回 狂雲集と高等賦—五山艶詩
- 第11回 三体詩抄と三体詩—中世の注釈
- 第12回 荻生徂徠と清代詩文論—近世詩文論
- 第13回 近代小説家の漢詩—森鷗外・夏目漱石と晋・唐詩
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	90% 自らの手で日本漢文学に対する現象を見つけられたか否かで判断する。
平常点	10% 質疑応答など、授業での貢献度を評価する。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

manabaにより資料を配付する。各自入手して授業に臨むこと。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: 日本文学研究史A

担当教員: 竹田 志保

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 3・4年次担当

科目ナンバー: LE-JL3-A407

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:0

更新者: AA2346

更新日時: 2026-01-11 20:01:3

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義では「日本近代文学」の研究においてこれまで用いられてきた方法論を取り上げ、それぞれの理論の特徴について解説します。また、具体的なテキストと合わせて実践的にその理論を理解し、研究史上の意義について考察します。この科目では、作家論、テキスト論などの方法について解説します。理論の概説ののち、関連する作品や研究論文を読み解きながら、研究の流れを俯瞰します。

**科目目的**

「日本近代文学」の研究の歴史を概観し、「文学研究」を行う上での基礎的な知識及び技術を身につけることを目的とします。また、それぞれの研究方法が求められた文化的背景や思想的背景を考えることによって、研究方法についての理解を深めることを目指します。

**到達目標**

文学研究の基礎的な知識を習得し、文学作品に対して理論的なアプローチができるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 1 ガイダンス、授業の概要の説明
- 2 「文学研究」の歴史と現在
- 3 作家論① 歴史と理論
- 4 作家論② 小説・論文読解
- 5 作家論③ 作家論からの発展
- 6 テキスト論① 歴史と理論(構造主義、記号論)
- 7 テキスト論② 歴史と理論(ナラトロジー)
- 8 テキスト論③ 小説・論文読解
- 9 テキスト論④ 歴史と理論(脱構築批評)
- 10 テキスト論⑤ 小説・論文読解
- 11 テキスト論⑥ 歴史と理論(生成論)
- 12 テキスト論⑦ 歴史と理論(インターテクスチュアリティ)
- 13 テキスト論⑧ 小説・論文読解
- 14 授業のまとめと総括:理論的アプローチの意義  
(内容は変更する場合があります。)

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業で扱う作品を事前資料として配布して、コメントなどを求めることがあります。必ず予習した上で授業に臨んでください。また、配布された授業資料は講義後によく見直して理解に努めてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	40%	学期末に、授業内容に関するテーマで筆記試験を行います。
レポート	0%	
平常点	60%	授業時に小テスト・コメントの提出を求めます。平常点とは、これらの授業内課題の内容による評価のことを言います。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回、授業に出席することが基本ですから、欠席が半期に3回を超える場合は原則として成績評価の対象から除外します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
 ディスカッション、ディベート  
 グループワーク  
 プレゼンテーション  
 実習、フィールドワーク  
 その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
 タブレット端末  
 その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】  
 購入してもらったテキスト等はありません。取り上げる作品・論文については、プリント、PDFなどを配布します。  
 【参考文献】  
 授業内で適宜紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

小説作品や論文などは事前に配布します。授業内での解説の前に、各自が通読していることが前提の授業となります。十分な予習が必要な授業ですので、承知しておいてください。

### 参考URL

### 備考

**科目名：日本文学研究史B****担当教員：竹田 志保**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A408

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AA2346

更新日時：2026-01-11 20:02:3

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義では「日本近代文学」の研究においてこれまで用いられてきた方法論を取り上げ、それぞれの理論の特徴について解説します。また、具体的なテキストと合わせて実践的にその理論を理解し、研究史上の意義について考察します。この科目では、ポストコロニアル批評、ジェンダー／クィア批評、カルチュラルスタディーズなどの方法について解説します。理論の概説のうち、関連する作品や研究論文を読み解きながら、研究の流れを俯瞰します。

**科目目的**

「日本近代文学」の研究の歴史を概観し、「文学研究」を行う上での基礎的な知識及び技術を身につけることを目的とします。また、それぞれの研究方法が求められた文化的背景や思想的背景を考えることによって、研究方法についての理解を深めることを目指します。

**到達目標**

文学研究の基礎的な知識を習得し、文学作品に対して理論的なアプローチができるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 1 ガイダンス、授業の概要の説明
- 2 マルクス主義批評
- 3 精神分析批評
- 5 ポストコロニアル批評① 歴史と理論
- 6 ポストコロニアル批評② 小説・論文読解
- 7 フェミニズム／ジェンダー批評① 歴史と理論(フェミニズム批評)
- 8 フェミニズム／ジェンダー批評② 歴史と理論(ジェンダー批評)
- 9 フェミニズム／ジェンダー批評③ 小説・論文読解
- 10 クィア批評① 歴史と理論
- 11 クィア批評② 小説・論文読解
- 10 カルチュラル・スタディーズ① 歴史と理論(受容理論、メディア論)
- 11 カルチュラル・スタディーズ② 小説・論文読解
- 12 カルチュラル・スタディーズ③ 歴史と理論(アダプテーション研究)
- 13 カルチュラル・スタディーズ④ 小説・論文読解
- 14 授業のまとめと総括:理論的アプローチの意義  
(内容は変更する場合があります。)

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	40%	学期末に、授業内容に関するテーマで筆記試験を行います。
レポート	0%	
平常点	60%	授業時に小テスト・コメントの提出を求めます。平常点とは、これらの授業内課題の内容による評価のことを言います。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回、授業に出席することが基本ですから、欠席が半期に3回を超える場合は原則として成績評価の対象から除外します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
- 購入してもらうテキスト等はありません。取り上げる作品・論文については、プリント、PDFなどを配布します。
- 【参考文献】
- 授業内で適宜紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

小説作品や論文などは事前に配布します。授業内での解説の前に、各自が通読していることが前提の授業となります。十分な予習が必要な授業ですので、承知しておいてください。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 国語学研究A****担当教員： 大西 拓一郎**

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 木4

配当年次： 3・4年次担当

科目ナンバー： LE-JA3-A409

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:0

更新者： AC1622

更新日時： 2025-11-17 10:04:0

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本語方言の全体像を概括的にとらえるとともに、それを対象とした日本語方言学を概説する。方言・共通語の定義から始まり、具体的な各地の方言の特徴をとらえ、それらがどのように研究され、解明されてきたのかを学ぶ。

**科目目的**

方言と呼ばれる言語の性質ならびにそれを研究することの意義を理解する。

**到達目標**

日本語の中にどのような地理的異なりがあり、それがどのように解明されてきたかの流れを把握する。

**授業計画と内容**

- 第1回 方言とは何か
- 第2回 方言・共通語・標準語
- 第3回 日本語の方言① 東部方言
- 第4回 日本語の方言② 西部方言
- 第5回 日本語の方言③ 九州方言
- 第6回 日本語の方言④ 琉球方言
- 第7回 方言研究の歴史
- 第8回 方言の記述的研究
- 第9回 方言分布の解明
- 第10回 言語地理学
- 第11回 方言区画論
- 第12回 方言区画論と言語地理学
- 第13回 標準語化
- 第14回 方言はなぜあるのか／総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験 70% 日本語方言学についての基礎知識を理解した上で、日本語の方言について学問としての方言学の観点から説明できるかどうかを評価します。

レポート	0%
平常点	30% 授業への参加(出席・課題提出)、受講態度(意見の表明等)の状況を基準とします。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

大西拓一郎『現代方言の世界』(2008年, 朝倉書店, シリーズ現代日本語の世界6) ISBN 9784254515565

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: 国語学研究B

担当教員: 大西 拓一郎

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 木4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-JA3-A410

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:0

更新者: AC1622

更新日時: 2025-11-17 10:03:0

### 授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

方言の分布を研究する言語地理学を概説する。言語地図に現れる方言の分布とはどのようなもので、言語の変化とそれがどう関わるのか、またそれらと社会や自然環境との関係についてなど、具体的な方言の分布図をもとに学ぶ。

### 科目目的

方言分布ならびにそのもととなる言語変化の基本を把握する。

### 到達目標

方言分布と言語変化を研究する言語地理学の基礎と展開を理解する。

### 授業計画と内容

- 第1回 言語地図・方言分布の類型
- 第2回 言語の内的変化・外的変化
- 第3回 古典的言語地理学・言語としての方言と方言形成の基本
- 第4回 類音牽引
- 第5回 同音衝突1
- 第6回 同音衝突2
- 第7回 民間語源
- 第8回 有縁性・有縁化
- 第9回 言語の伝播
- 第10回 言語と制度
- 第11回 言語変化と社会環境
- 第12回 方言分布をささえる言語システム
- 第13回 文法の実時間変化
- 第14回 方言分布の基本則

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |     |
|------|-----|
| 中間試験 | 0%  |
| 期末試験 | 70% |
- 言語理学についての基礎知識を理解した上で、方言分布と言語変化について言語地理学の観点から説明できるかどうかを評価します。

レポート	0%
平常点	30% 授業への参加(出席・課題提出)、受講態度(意見の表明等)の状況を基準とします。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

大西拓一郎『ことばの地理学—方言はなぜそこにあるのか』(2016年, 大修館書店) ISBN 9784469213607  
 大西拓一郎『方言はなぜ存在するのか—ことばの変化と地理空間』(2023年, 大修館書店) ISBN 9784469213959  
 大西拓一郎『現代方言の世界』(2008年, 朝倉書店, シリーズ現代日本語の世界6) ISBN 9784254515565

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 日本芸能史A****担当教員： 宮本 圭造**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JC3-A411

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AC7640

更新日時：2026-01-12 23:18:5

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

古代から江戸時代までの日本芸能史の流れを学びます。

日本には舞楽・能・狂言、浄瑠璃・歌舞伎など、様々なジャンルの古典芸能があり、それらは現在でも現役の舞台芸術として盛んに演じられています。これら異なる時代に成立した芸能が、それぞれに特徴的な様式を示し、独自性を保ち続けているところに、日本芸能史の大きな特質があります。そのような多様性がいかにして生まれたのか。この授業では、高校までの教育の中ではほとんど触れることのなかった日本芸能史の世界を紹介するとともに、その歴史的な背景についても紹介します。

古典芸能に触れることは、日本の特質や精神性を理解する上で大切です。文学作品や人々の精神生活に多くの影響を与えているだけでなく、近年は世界的にもその個性的な演劇様式や世界観が注目されるようになってきています。日本芸能史について学ぶことは、芸能が日本の文化の中で果たしていた役割、さらには世界の演劇芸能との関わりにも目を広げることに繋がるでしょう。

授業では毎回、図版などを多用したプリントを配布して、理解の一助にします。古典芸能の動画鑑賞を、10～15分程度行う予定です。リアクションペーパーで感想や質問等を聞きます。

**科目目的**

この授業は、幅広い教養として、日本の芸能史に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。

**到達目標**

日本の芸能に関する基礎的な知識を身につけ、理解したうえで、古典芸能を鑑賞することができるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 1、芸能とは何か／神がかりの芸能
- 2、大陸渡来の芸能
- 3、渡来芸能の日本的展開
- 4、中世芸能の成立／「翁」の誕生
- 5、能の演劇構造
- 6、風流能の展開
- 7、狂言の成立
- 8、狂言の類型と類曲
- 9、人形劇の系譜
- 10、人形浄瑠璃の成立
- 11、近松と近松以後
- 12、ややこ踊りから歌舞伎へ
- 13、スペクタクル演劇への展開
- 14、総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

予習:各回の授業内容について、参考文献や参考WEBサイトで概要を調べておく。

古典芸能の鑑賞を行った場合は、具体的な内容や感想についてレポート提出する(任意)。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 芸能史に関する基本的な知識を、講義内容に即して試験します。
レポート	10% 古典芸能に関する興味・理解が正確に記されているかを評価します。
平常点	20% 授業への参加度を基準とします。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト:授業内でプリントを配布します。  
参考文献:授業内で指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

受講者の反応等により、授業計画通りに進まない場合もあります。

授業内容に関する質問等には随時対応します。

参考URL

備考

---

**科目名： 日本芸能史B****担当教員： 宮本 圭造**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JC3-A412

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:0

更新者：AC7640

更新日時：2026-01-12 22:48:3

**授業形式**

すべての授業回について、対面授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本の芸能と仏教との関わりを学びます。

日本には様々な古典芸能があり、それらは現代にも生き続けています。前期に開講する「日本芸能史A」では、基本的な日本芸能史の流れを取り上げますが、この授業では古代日本に伝わって以来、日本人の生活に深く根ざしている仏教の世界観が日本の芸能にどのような影響を及ぼしたかを見ていきます。

仏教の世界観を代表する一つが、地獄・極楽の思想です。地獄の世界観は奈良時代末期に日本に定着し、平安時代の浄土信仰の高まりとともに、大きな展開を示しました。それは芸能においても例外ではありません。踊り念仏や来迎会などの宗教行事が盛んに行われたほか、琵琶法師によって平曲として語られた平家物語にも、当時の仏教の世界観が色濃く表れています。室町時代になると、地獄に落ちた罪人の様子が、能や狂言の作品として演劇化されました。浄瑠璃・歌舞伎、落語のような江戸時代の芸能にも、仏教の世界観が色濃く投影していますが、それ以前とは大きく異なる様相を見て取ることが出来ます。

日本の歴史の中で、芸能と仏教がいかに深く関わりつつ、同時代の文化に様々な刺激を与えていたか。「芸能史」という枠組みを超えた、一つの文化現象としての地獄・極楽思想の展開を知ることで、日本文化についての新たな視点を得ることが出来るでしょう。

毎回、図版などを多用したプリントを配布して理解の一助にします。古典芸能の動画鑑賞を10分～15分程度行う予定です。リアクションペーパーで、感想や質問などを提出してもらいます。

**科目目的**

この授業は、幅広い教養として、日本の芸能史と文化史に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。

**到達目標**

日本の芸能・文化史に関する基礎的な知識を身につけたうえで、日本の文化史の大きな流れを理解できるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 1、日本における異界
- 2、日本における地獄思想の展開
- 3、『往生要集』の世界観
- 4、浄土思想と芸能
- 5、平家物語と地獄極楽
- 6、踊り念仏の展開
- 7、地獄の唱導劇としての能
- 8、もう一つの地獄劇
- 9、地獄極楽の霊場
- 10、狂言に描かれた地獄
- 11、地獄のパロディ
- 12、人形浄瑠璃と仏教的因果
- 13、歌舞伎の怪談物とその展開
- 14、総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

予習:各回の授業内容について、参考文献や参考WEBサイトで概要を調べておく。

古典芸能の鑑賞を行った場合は、具体的な内容や感想についてレポート提出する(任意)。

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	芸能史に関する基本的な知識を、講義内容に即して試験します。
レポート	10%	古典芸能に関する興味・理解が正確に記されているかを評価します。
平常点	20%	授業への参加度を基準とします。
その他	0%	

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキスト:授業内でプリントを配布します。  
参考文献:授業内で指示します。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

受講者の反応等により、授業計画通りに進まない場合もあります。  
授業内容に関する質問等には随時対応します。

参考URL

備考

---